

# 第26回 さんぽを楽しむ会 実施報告

## 「都電荒川線に乗って飛鳥山を歩く」コース

令和6年5月21日、旭川東高等学校東京同窓会第26回「さんぽを楽しむ会」は、懐かしいチンチン電車に乗って北区の飛鳥山公園のさんぽにでかけました。参加者は東高7期から39期までの総勢19名でした。ガイドは24回からお願いした東京シティガイドクラブの竹西城太郎さんと、岡部俊夫さん、山崎セツ子さんの三人です。竹西さんは北区のお生まれです。岡部さんは今回3回目のガイドとなります。

午前9時45分、京成町屋駅に集合。3班に分かれて、いよいよ散歩を開始します。まずは、とても良い香りのバラの花が咲く町屋駅前から都電荒川線・東京さくらトラムに乗車して荒川車庫前で下車します。休園日で見学を断念した荒川遊園地前の隣の電停です。都電おもいで広場にはPCCカーの5500形と学園号の旧7500形が展示されて



花壇のバラ香る京成町屋駅に集合



都電7707形に大挙して乗り込む



車内は突如寿司詰め状態に!

いますが、平日なので中に入れず残念でした。隣の荒川車庫から出庫するカラフルな電車も目を引きま。 「東京さくらトラム(都電荒川線)ものしりBOOK」を見ながら、皆さんガイドのお話に聞き入っていたかと思ったら、鉄オタの方は熱心に写真撮影?! 1日あたり約4万7千人の利用があるとのことで、私たちが乗っていつになく混雑させ



出庫前の都電をバラ達が見送る



懐かしの旧形電車を臨む

て申し訳ないような…。さすがに荒川区の三ノ輪橋から新宿区の早稲田まで乗る人は少ないとのこと。荒川車庫前から再び都電へ乗って王子駅前へ。

5月いっぱい運行される都電バラ号(8505号車)ともすれ違ふことができラッキーでした。

王寺駅前下車して、飛鳥山公園へ。



「バラ号」に遭遇



ラック&ビーンズ式 横3席を陣取る? 急勾配もOK 大御所諸氏

今年7月3日より発行される新一万円札の顔、渋沢栄一

(1840~1931)が晩年に住んでいたところ。北区王寺駅にはいろいろな看板が立ち並び、まさに渋沢栄一推しのような様子でした。飛鳥山モノレール(あすかパークレール)

「アスカルゴ」に乗って約2分で山頂駅へ。高低差

18メートル、結構な急斜面をかたつむりに似た外観

でゆっくり登っていきます。無料で乗車できるのもうれしい。老いも若きも乗車しました。

飛鳥山公園は、約300年前、八代将軍徳川吉宗が江戸っ子たちの行楽地とするため、桜の名所として整備されたところ。桜の季節の賑わいはさぞかしと思われる。桜の木の下は草地となっており、江戸時代からの伝統で、ここは飲食OKの花見が今でも楽しめるとのことでした。飛鳥山は標高25.4メートル。ちなみに東京都内で



「飛鳥山碑」読めない碑文解説に挑戦?

一番低い山というか23区内の最高峰は港区の愛宕山25.7メートルとか。北区の願いもむなしく国土地理院の地形図には記載されていません。公園内には石碑があります。明治14年(1881)に勝海舟らによって建立された佐久間象山の「桜賦」の碑。飛鳥山碑は、元文2年(1737)に建立され、飛鳥山の由来を記しています。石材は紀州から献上



山上の都電は6080で内覧可能 都電の隣は保存SLのD51 853 大量の機関車や電車を高狭な飛鳥山の頂へ如何様に運んだか?

されたものです。あまりに難解な漢文であるため、江戸時代は読めない碑として知られていたとの解説に、「今でも読めない」との声があがっていました。児童エリアに展示されている都電6000形電車の中を見学して、次の紙の博物館をめざします。

紙の博物館は、和紙や洋紙の両面から、紙の歴史・文化・産業を中心に紹介している世界でも数少ない紙専門の博物館です。時間があまりなくて駆け足の見学となりました。入口にある協賛会社の看板の中に国策パルプがあるのを見つけて、旭川のパルプ工場を思い起こす方も多かったようです。



ロール紙製造設備の模型



明治天皇行幸時製紙場再現

次は渋沢栄一の渋沢史料館を見学しました。渋沢栄一は、令和3年にNHK大河ドラマ「青天を衝け」でイケメン吉沢亮さんが演じたのは記憶に新しいと思います。近代日本の経済社会の基礎を作った人物で、その創設に携わった会社は500を超えることが知られています。なんとといっても今年の新一万円札の顔であります。展示は91年の人生をたどることができ、また幅広い活動を知ることができます。多くの子孫があり、現在のNHK朝ドラの「虎に翼」の穂高先生のモデルである穂積重遠は、栄一の長女歌子の子で初孫です。印象に残ったのは5000円札の津田梅子や1000円札の北里柴三郎との交流を示す展示でした。庭に出て、まずは銅像を見学。昨年、第24回で常盤橋公園でも銅像がありましたが、



渋沢栄一60歳代の銅像

飛鳥山公園の銅像は若いころ（といっても60歳代）のだとか。その後二つの国指定重要文化財の晩香廬（ばんこうろ）と青淵文庫（せいえんぶんこ）の中に入って見学しました。晩香廬は渋沢栄一の喜寿（77歳）を祝って現在の清水建設から贈られた洋風茶室です。ばんこうろ



【重文】「晩香廬」をバックに全員集合 …逆光補正後…



「晩香廬」室内外は気品に溢れる

とバンガローの音が似ているとか？暖炉の煙突が黒くなっているのは、暖依村荘と呼ばれた本邸が空襲で焼けた影響と説明がありました。ここで集合写真。また、青淵文庫は傘寿（80歳）と子爵昇格のお祝いに竜門社（現・公益財団法人渋沢栄一記念財団）



「青淵文庫」窓上ステンドグラスが圧巻

から贈呈されたものです。スタンドグラスや装飾タイルが素敵な建物です。両方とも大正期を代表する建築家のひとりである田辺淳吉の代表作です。なお、青淵文庫の2階は書庫ですが、中に納めるべき書籍は残念なことに関東大震災で燃えてしまったそうです。芝生の庭で多くの賓客



「青淵文庫」渋沢栄一の生涯を詳細展示

をもてなした写真が残っています。帰り道は、あじさいの咲く飛鳥の小径を歩いて王子駅前まで下りてきました。



昼食会場は、王寺駅前の創業77年の老舗居酒屋半平（はんぺい）です。

28度を記録した暑い散歩を終えたあとは冷えたビールでの乾杯。王子名物の玉子焼きをつまみに大いに盛り上がりました。



老舗「半平」で昼食



新代表幹事の音頭で「乾杯」、飲み放題でもあり大盛況！

今回は約6000歩の散歩で、都電荒川線と新一万円札の顔の渋沢栄一の屋敷があった飛鳥山公園のさんぽを満喫しました。東京シティガイドクラブの竹西さん、岡部さんと山崎さんのお話も、6～7人のグループでよく聞くことができました。



料理の中央は王子の名物 玉子焼きです

次回は、11月中旬、赤坂の迎賓館の見学を予定しています。多くの旭東OB、OGの皆様に参加をお待ちしております。（執筆：27期 砂澤祐子、割付他：18期 徳田光雄）

date2024.5.21 9:45~15:00